

聖和短大 中村 恭子

1. わが国近世の服飾において、伊達藩の服飾については華やかな俗説がおこなわれているが、まだ研究はなされていない。私どもの郷土である伊達藩の服飾について、その真の姿を究明したいと思い、先年よりこの研究にとりかかっている。

2. 近世封建制下の伊達藩の服飾界は、幕政下直接に為政者であった伊達家の服飾政策によってみちびかれていたともいえる。また藩主のそれが、伊達藩服飾の峯をなしているとみることもできる。この観点より伊達家の研究を解明の糸口として仕事を進めている。

3. 伊達家300年にわたる文化財遺品のうち、約1万点に近い遺品が昭和26年10月仙台市に寄贈され、現在市博物館に所蔵されている。その中に伊達政宗の陣羽織2領ほかの服飾品類、遺品資料のとぼしい江戸前期のものである三沢初子（伊達綱宗の生母）のもの、また、わが国に現存するものとしては恐らく1点のみと思われる孔雀毛織陣羽織などをはじめとする服飾遺品が100点あまり含まれている。今回はその主なるものについて概要を紹介したい。